2024年度大阪府訪問看護実践研修事業
教育ステーション事業実践報告

市東ブロック
訪問看護ステーション東成おおみち
藤田陽

目標

①市東ブロックの多職種に対してACP研修を実施し、ACP支援を実践できる人材を育成する

②「グリーフケア」の研修を実施し、グリーフケアへの理解を深める

③「訪問看護師による重度化防止」の研修を通じて多職種に訪問看護について周知し、訪問看護の利用につなげる

④教育ステーションとして、地域の訪問看護ステーション・医療機関・多職種、地域住民などの相談窓口としての役割を果たす

1.研修事業
【集合研修】

ACP支援実践人材育成研修

開催日時：12月7日(土)

13:00～16:30

大阪産業創造館5階研修室A・B

目標人数50名／実参加者数20名

1.研修事業
【ハイブリッド研修】

「重度化予防のために
訪問看護師ができること」

開催日：7月19日(金) 16:00~17:00
森之宮第2団地6号棟103号室
＋ZOOM配信
目標15名/参加者数10名
目標15名/アンケート回収数10名

1.研修事業
【オンライン研修】

「在宅療養者の
グリーフケアを考える」

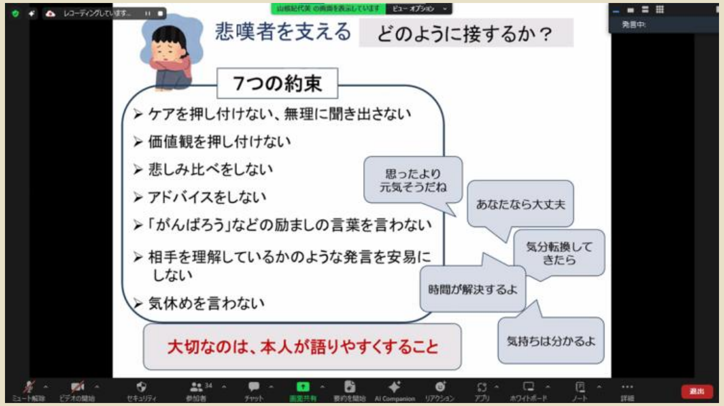
開催日：10月18日(金)

16:00~17:00

ZOOM配信

目標31名

/アンケート回収数52名



2.訪問看護体験研修事業

【看護業務】

目標：10　／実績：8（訪問看護師1名、近隣病院所属看護師7名）

【管理業務】

目標：1　／実績：0

【気づき】

病院看護師は退院後の生活をイメージしにくい。実際に体験することで、患者は生活者であること、利用者主体のケア、多職種連携など在宅生活を支える上でポイントとなる点を理解することができた。今後の看ー看連携・退院支援につながる研修であった。

3.電話FAX相談Q＆A事業

目標：10件／実績：30件

相談内容：報酬関係10件、実務内容10件、指示書関係9件、精神科関連1件

相談先：訪問看護関係23件、病院関係6件、ケアマネジャー1件

【気づき】

非会員のステーションからの相談が増えた。報酬改定についての相談だけではなく難病や精神など複雑なケースや困難ケースの実務相談も多かった。多くの学びがあった反面、制度を調べたり厚生局への問い合わせなどに多くの時間を取った。

4.コンサルテーション事業

【電話サポート】

目標: 1 件／実績: 1 件

内容：小児の訪問看護について

【対面サポート】

目標: 1 件／実績: 3 件

内容：①人工血管を用いた留置針の穿刺手技練習

②小児の訪問看護の同行訪問

③精神科訪問看護ステーションの運営について

【気づき】

① 人工血管を用いた留置針の穿刺手技練習：留置針の穿刺は習得しておきたい手技ではあるが、在宅の現場で習得するのは難しいことが多く、看護協会でも実技研修は行っていない。個々の看護師の経歴や経験に頼っている現状がある。
→今回人工血管を用いて実際に何度も穿刺することで、コツを習得することができた。

②小児の訪問看護の同行訪問：発達障害のある児と母親とのコミュニケーションや多職種との連携に不安があり、電話相談にて対応した。その後対象の児が退院したため、訪問看護に同行した。
→実際のケアの場面を見ることでコミュニケーションの取り方などが理解でき、今後のケアに生かすことができると感想あり。

③精神科訪問看護ステーションの運営について：急に管理者になるため精神科に特化したステーションの運営方法を学びたいと相談あり、協力ステーションに依頼した。
→件数やコスト管理、スタッフ管理など具体的に相談できたことで、自社と他社の違いについて実感でき、今後取り組むべき課題が整理できた。

自事業所は緩和ケア認定看護師が在籍しており、緩和ケアについてのコンサルテーションを広報していたが今回申し込みはなかった。緩和ケアの対象は癌だけではないこと、疼痛コントロールだけではないこと（症状コントロールの相談も受け付けていること）を多職種に対してわかりやすく広報する必要があったと考える。

5.地域の協力体制

【協力ステーション】

- 訪問看護ステーションカルミア／鶴見区
- Sieg訪問看護ステーション／中央区
- 訪問看護ステーションメンタルラボ／天王寺区
- 日本橋老人訪問看護ステーション／浪速区
- 訪問看護ステーション鳳凰／生野区

【協力ナース】

- 道川綾加（緩和ケア認定看護師）／訪問看護ステーション東成おおみち

6.目標の評価

①研修日が台風の影響で変更になったこともあり集客に苦慮したが、20名と少人数ではあるが研修を開催することができた。ケアマネジャーやリハビリ職の参加率が低かったので、多職種に対する広報の検討、開催日時の検討等が必要と思われる。

②目標人数31名に対しアンケート回収数52名と、グリーフケアに対する関心の高さを感じた。講師の、訪問看護師と利用者家族の両方を経験したからこその実践に則した講義内容は、グリーフケアへの理解を深めるものであった。

③知識不足が原因で訪問看護を導入できていないケアマネジャーをターゲットに研修を行った。アンケートでは95%の参加者が今後の業務に生かせると返答あり、一定の効果はあったと考える。訪問看護の認知度はまだまだ低いと思われるので、訪問看護の啓発は今後も継続する必要がある。

④訪問看護ステーションからの相談が8割を占めているが、非会員のステーションや医療機関からの相談が昨年度より増えた。一方でケアマネジャーなど多職種からの相談は増えていないので、多職種に対する広報方法の検討が必要と考える。

7.まとめ

今年度も訪問看護ステーションおおみちと協力して教育ステーション事業を実施した。協力ステーションやブロック役員・理事の協力があり、なんとか事業を完遂することができた。 2年間教育ステーション事業を担わせていただき、様々なことを経験することができた。地域の訪問看護ステーションや多職種が抱える課題や担うべき役割を知ることができ、視野が広がったように思う。
他地域とのつながりができ、非常に大きな学びとなった。

【事業の効果】
電話相談やコンサルテーションは、小規模や新設ステーション、困難ケースなどの相談窓口として果たす役割は非常に大きいと考える。また、体験研修は訪問看護の実務を理解する効果的な研修であり、実際に病院との看看連携で効果はあると考える。

【課題】
ACP研修への多職種の参加をいかにして増やすか
～多くのACP研修の中から選んでもらうために

教育ステーションをどのように支えていくか
～継続できる教育ステーション